

普及活動情勢報告（平成27年6月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

南国市3JAシシトウ部会の合同会議を開催（力強いシシトウ産地の育成）



参加者から活動に対する多くの提案がありました

5月29日、JA南国市南部営農センターにおいて、南国市3JAシシトウ部会の部長、女性部役員、園芸連、各JA職員が出席し、シシトウ産地の現状と課題、平成27年度の活動計画について検討しました。農業改良普及課は、会議の開催や運営を支援し、産地の状況と課題について説明しました。参加者からは「これ以上、出荷量を減らしてはいけない」「これまでの活動をやめたら何もしなくなる」との声がきかれ、今年度も生産者大会を中心に、消費宣伝、現地検討会など内容を見直しながら活動を進めていくこととなりました。

農業改良普及課は、JA各部会、関係機関と連携して計画的に活動ができるよう支援していきます。

レンゲ跡米講習会



講習会の様子

5月21日、蕪生米研究会は消費者にアピールできる農法として、以前地域で行われていたれんげ跡米に取り組むために、JA土佐香美香北支所において栽培講習会を行いました。れんげ跡米は倒伏するという強い思い込みがあったため、耕耘から代かきまでの日数調整で、倒伏が軽減できることを説明すると、「今年から取り組む」、「香北の水稲生産者に広く周知させ、皆で取り組むべきではないか」と積極的な意見が出されました。

農業改良普及課では、蕪生米研究会の平成27年度の活動として、取り組み田での現地検討会と共に、定期的な栽培技術講習会を開催し、れんげ跡米の定着を推進します。

中央東青年農業士ブロックの役員会開催



青年農業士から活動に対する多くの提案がありました

6月8日、ブロック役員11名が出席し、青年農業士中央東ブロックの活動状況及び今後の活動計画について振興センター会議室にて協議しました。農業改良普及課は、名古屋での県産野菜等PR活動の対象校との交渉状況、8月に開催予定である研修会の内容等について説明しました。協議の結果、本年度のPR活動は「親子でのふれあい」にテーマが決定しました。

農業改良普及課は、計画的に準備、活動ができるよう関係機関と連携して支援していきます。

J A土佐香美果樹部会役員会開催支援



役員会の様子

6月17日 J A土佐香美山北果樹センターにおいて果樹部会の役員会が開催されました。今回の役員会は5月末の総会で役員改選が行われ、新体制での初めての役員会となりました。今年度は果樹産地構造改革計画の見直しが必要な年で、農業改良普及課では新たな計画を作るにあたり、より全体の意向を盛り込んだ計画作りを提案しました。今後は農業改良普及課を含む各関係機関と部会が連携し、産地の現状や課題、これからの方向について検討することを新役員全体で合意しました。

農業改良普及課では、新たな計画作りを通じ果樹部会と一体となり「山北ブランド」が次世代に繋がる産地となるよう産地作りを支援していきます。

ニラの品質向上にむけて目慣らし会を開催



ニラを確認する参加者

6月4日、9日、J A土佐香美ニラ部会は管内3か所においてニラの日慣らし会を開催し、ニラ農家やJ A営農指導員など35名が参加しました。J Aからは、出荷されたニラを使用し、長さや葉色、害虫の食害痕などの出荷規格や異物混入への注意喚起がされ、梅雨時期に入ったことから腐敗性の病害への防除対策が示されました。農業改良普及課からは、ネギアザミウマの発生状況と、はたき落としによる簡易なアザミウマの確認方法について情報提供しました。また、市場事故を未然に防ぐため、出荷までの作業を確認する「環境・安全、安心点検シート」で自己点検を行いました。生産者は、今後もよりよいニラを出荷できるように認識を新たにしていました。

農業改良普及課は、今後もニラの品質向上対策の推進にむけて支援していきます。

メロン現地検討会



今後の栽培管理を検討

メロンの現地検討会が、6月10日に南国市の西島園芸団地で、6月11日にJA土佐香美夜須支所で開催され、合計13名が参加しました。

品種や生育状況に応じた今後の栽培管理について、種苗会社の方からアドバイスを受けながら生産者間で意見交換しました。農業改良普及課からは新たに発生した害虫についての注意喚起をしました。また西島園芸団地では現地検討会後に環境制御技術に関する勉強会を行い、ハウス内の環境測定データや果実肥大調査の結果をもとに、管理の違いによる生育の差を示しました。上手な生産者と比較することで改善点が見えてくるなど、データ収集の必要性和有効な活用を提案し、参加者は納得しているようでした。

農業改良普及課は今後もメロンの安定生産に向けて、栽培管理技術が向上するよう支援していきます。

花木推進 6 品目さし木講習会



参加者は各自がさし木後に持ち帰り育苗も体験します。

6月12日、JA土佐香美花木研究協議会は、物部出荷場において、推進花木6品目の新規栽培希望者を対象にさし木の体験と、その後の管理を各自が行うための講習会を実施し、香北町から5名が参加しました。農業改良普及課は、中央東林業事務所やJA物部、香北各支所とともに開催を支援し、用土の種類や大きさ、さす深さ、さし床を密閉にする方法などさし木の方法と管理について説明しました。参加者からは「葉ほどの程度残したら良いのか」、「定植後のシカの食害はどうか」など多くの質問がありました。

農業改良普及課は、今後も新規栽培希望者のさし木や育苗など希望品目の栽培を支援していきます。

夏ねぎの確保に向けて、青壮年部が共同作業



夏期の高温対策として白黒マルチを展張

JA土佐香美洋菜部会青壮年部では、本年度、土佐山田地区内のほ場を借受け、青ねぎの実生試験に取り組んでいます。5月下旬から6月上旬にかけては、うね立ておよび植付け作業を行いました。農業改良普及課では、育苗および肥料設計、ほ場準備や植付け等の作業支援を行いました。部員からは、「少しでも夏場の収入が増えれば」、「皆で集まって賑やかにやるのがいい」等の声が聞かれ、順調に経過すれば、7月中旬から8月中旬にかけて収穫となる予定です。

農業改良普及課では、農薬選定や生育調査等、今後も若手青ねぎ生産者の組織活動を支援していきます。

第19回JA南国市米づくり親子セミナー開催



営農指導員による田植え指導の様子

6月1日、南国市上倉地区において、JA南国市が第19回米づくり親子セミナーを開催しました。後免野田小学校・三和小学校の児童51名とその保護者、地域の水稲農家、関係機関らが参加し、お米の学習や田植え体験を実施しました。農業改良普及課は、児童らが田植えをする稲の品種や、稲の生育過程について説明しました。児童らはメモを取る等熱心に話を聞き、「高知県にはどんなブランド米がありますか?」や「どの品種が一番作られていますか?」といった質問が出ました。

農業改良普及課は今後も稲刈や感謝祭等の体験活動を通して南国市の児童らに対する食育活動を支援していきます。

管内全域に環境制御技術を普及、定着させよう



地区環境制御技術推進会議から

6月11日、香美農林合同庁舎で、中央東地区環境制御技術普及推進会議を開催し、炭酸ガス実証農家等生産者、JA、県関係者ら36人が参加しました。農業改良普及課は主催者として今年度から始まった環境制御技術の「重点プロジェクト計画」と炭酸ガス実証ほの結果や次作の計画について説明しました。生産者からは炭酸ガス施用技術の普及には「圧倒的な成果を出すこと」、「春の樹の状態を維持すること」等の意見が出ました。

農業改良普及課は出された意見も参考しながら、環境制御技術導入農家の増収で、技術の普及・定着を図ります。

地域や自分たちの経営を見つめて



そよ風ウォッチングの様子

5月27日に香南市物部町で香美市の農村女性リーダーが企画した「そよかぜウォッチング in 香美」が行われ、農業改良普及課は研修会の内容や参加促進など円滑な取り組みに向けて支援しました。

地元女性グループを講師にした豆腐作りの体験研修の後、山奥に点在する地元農村女性リーダーのユズ園や経営等の視察を行いました。参加者は、ユズ園、水田、連なる山々に囲まれた環境で生活してみたいと思う反面、依然として高齢化が課題となっている山間部の農業に感慨深くなっている様子でした。

農業改良普及課は、農村女性リーダーの自主活動の円滑な実施、新たな活動の提案等資質向上に向けた環境をつくっていきます。